



PRIO

スタイン・トネソン

# 東アジアと ウクライナにおける 紛争

The Toda Peace Institute, Tokyo 27 January 2023

Independent • International • Interdisciplinary

# 東アジアとウクライナにおける紛争

ウクライナでの紛争は以下の特徴があるカテゴリーに分類される：

- 介入／侵略している国は核を保有する大国である
- 抵抗している国は意欲の高い軍隊を持ち、国家の独立と団結を求める広範な民衆の支持のもと戦っている
- 抵抗している国は核を保有する大国から多大な軍事的また他の支援を受けている

# 東アジアとウクライナにおける紛争

同じカテゴリーの他の事例は：

- 朝鮮戦争, 1950-1953
- ベトナム戦争におけるアメリカの介入（1964-1973/75）
- アフガニスタン紛争におけるソ連の介入（1979-1989）
- 中越戦争をはじめとする中国のベトナムへの介入（1979-1987/91）

これらの紛争は、第2次世界大戦以降、最悪の戦争にあげられる

- ✓ 3つの紛争とも東アジアで行われた
- ✓ 紛争が長期化し、終結することが困難であった
- ✓ 戦闘に対話を組み合わせて働きかけることで、介入している国の軍隊の撤退が実現した

# 東アジアとウクライナにおける紛争

核保有国同士の直接的な紛争は少なく、すぐに解決をしてきた

例:

- ✓ 中ソ国境紛争（1969）
- ✓ 印パ間でのカルギル紛争（1999）
- ✓ 中印間でのヒマラヤ山脈地帯における衝突（2021）

対照的に、一方の核保有国が直接的に戦闘に従事し、もう一方が敵対国に支援をする戦争（代理戦争）は長期にわたり、莫大なコストがかかった

# 東アジアとウクライナにおける紛争

何故これらの紛争は長期化し、コストがかかるのか？

核保有国の介入は、直接的にも間接的にも、勝利を確保するための手段に制限を設けるものである。核戦争を引き起こすほど相手を刺激してはならない。

もし介入が迅速な勝利をもたらさず、かえって強固な抵抗につながれば、戦争は長期化し、勝者のいない戦争となる。

その場合、戦闘はいつかは膠着状態に陥る。武力の行使はもはや勝利をもたらすことを目的としたものではなく、交渉の最良の結果を得るための駆け引きの一つとなる。そのことに当人たちが気づくまで、長い時間を要するだろう。

# 東アジアとウクライナにおける紛争

長期化し勝者なき戦争は、次のような段階をたどる:

戦争	発端	エスカレーション	膠着	交渉	ローカライゼーション	結果
朝鮮戦争 での米国/国連	1948-50	1950	1951-53	1951-53 休戦	完全ではなく米国 が残留している	ゼロ分割
ベトナム戦争 での米国	1955-63	1964-68	1968-73	1968-73 パリ協定	1969-75 ベトナム化	撤退 失敗
アフガニスタン戦争 でのソ連	1978	1979-82	1982-89	1988-89 撤退	1989-92 タリバン	撤退 失敗
中越戦争と 中国	1976-78	1979	1979-89	1987-91 パリ協定	1992-98 クメル・ルージュ の衰退	成功 影響力
ウクライナ戦争 でのロシア	2008-14	2014- 2022-	?	?	該当なし	?

# 東アジアとウクライナにおける紛争

東アジアにとって、ウクライナにおける戦争が示唆することはなにか。

1. 東アジアがかつて暴力的であった過去、そして1980年代以降に平和になったことで、地域がいかに大きな恩恵を得たかを思い起こさせるものである。  
「東アジアの平和」を大切にしよう！

# 東アジアとウクライナにおける紛争

東アジアにとって、ウクライナにおける紛争が示唆することはなにか。

2. 東アジアは、東アジアだけの平和を必要としているわけではない。平和なヨーロッパも必要であり、特に、経済的、戦略的（安定した中央アジア）に、気候変動との闘いにおいても、平和で安定し、経済的に持続可能なロシアというパートナーは必要である。

# 東アジアとウクライナにおける紛争

東アジアにとって、ウクライナにおける紛争が示唆することはなにか。

3. ロシアとのパートナーシップやウクライナとの伝統的に良好な関係を通じて、中国はロシアに、征服した領土から撤退し、ウクライナと交渉するよう説得する特別な役割を担っている

# 東アジアとウクライナにおける紛争

東アジアにとって、ウクライナにおける紛争が示唆することはなにか。

- 東アジアの平和を強固にするために、中国は善隣政策を再開し、米国やヨーロッパとの新たな和解を模索し、特に台湾に関して、現在の米国の敵意の根拠を取り除く必要がある。
- 今は、アメリカの政策がリベラルに変わるよりも、習近平が平和的なイニシアティブを取る可能性の方が大きいと見ている。
- 中国の近隣諸国は、中国との関係をできる限り良好に保ち、アジアのウクライナ化の可能性を防ぐために、中米協力の再開に向けて静かに、そして地道に努力すべきである。